

令和3年度 安城市環境審議会議事録要旨

日 時	令和3年10月27日（木）午後3時～4時30分	
場 所	安城市役所本庁舎災害対策本部室	
出席者	委 員	寺田会長、平岩副会長、浅田委員、石原委員、岩井委員、神谷委員、清田委員、土井委員、中尾委員、中村委員、久恒委員、前田委員 12名
	事務局	産業環境部長、産業環境部次長、環境都市推進課長、環境都市推進課環境政策係長、環境都市推進課環境衛生係長、環境都市推進課職員
次 第	1 委嘱状交付 2 産業環境部長あいさつ 3 会長及び副会長の選出 4 議 題 (1) 安城市環境審議会について (2) 第1次安城市環境基本計画について (3) 第2次安城市環境基本計画と令和3年度アクションプランについて (4) 地球温暖化問題について【中尾委員による講義】 (5) 安城市における地球温暖化対策の施策・方針等について 5 その他	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料1) 安城市環境審議会・第1次安城市環境基本計画について ・(資料2) 第1次安城市環境基本計画 基本的施策と成果指標一覧 ・(資料3) 第2次安城市環境基本計画・令和3年度アクションプランについて ・(資料4) 地球温暖化問題について ・(資料5) 安城市における地球温暖化対策の施策・方針等について ・啓発パンフレット（広報あんじょう記事、市民向け、事業者向け） 	

1 会長あいさつ

2 産業環境部長あいさつ

3 会長及び副会長の選出

4 議 題

(1) 安城市環境審議会について

<説明事項>

【事務局】

(資料：安城市環境審議会・第1次安城市環境基本計画について)

- ・安城市環境審議会の概要

<報告に関する質問・意見>

意見なし

(2) 第1次安城市環境基本計画について

<説明事項>

【事務局】

(資料：安城市環境審議会・第1次安城市環境基本計画について、第1次安城市環境基本計画 基本的施策と成果指標一覧)

- ・第1次安城市環境基本計画の概要と成果報告
- ・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の成果報告

<説明に関する質問・意見>

【神谷委員】

地球温暖化対策実行計画（区域施策編）における市域のCO2削減量は、どのように算出しているか。実際に市内のCO2排出量を測定しているのか。

【事務局】

安城市域のCO2排出量は、環境省が公表している数値を使用している。都道府県の炭素排出量を、安城市の部門別活動量で按分した推計値である。例えば産業部門のCO2排出量については、環境省が公表する日本全体のCO2排出量を、安城市内の製造品出荷額等の統計数値で按分することで、安城市のCO2排出量を算出している。市域全体のCO2排出量は、それらを部門ごとに算出した数値の合算である。

【神谷委員】

節電をする等、CO2排出量削減に協力したいと思っている市民はいると思うが、市民の行動による努力は計算に反映されるのか。

【事務局】

環境省の数値は全体の按分であるため、安城市民が努力したというだけでは反映されづらい。ただし、市民が省エネや節電をすれば、結果的にエネルギーの使用が減り、CO2排出量の削減につながる。今後とも分かりやすく、市民・事業者の努力が反映できるような方法を検討していきたい。

(3) 第2次安城市環境基本計画と令和3年度アクションプランについて

<説明事項>

【事務局】

- ・第2次安城市環境基本計画の構成説明、計画内容
- ・令和3年度アクションプランについて

<説明に関する質問・意見>

【寺田会長】

アクションプランは毎年更新されるか。

【事務局】

毎年更新し、公表する。

【神谷委員】

このアクションプランからは、市が一生懸命実行しようとしていることは伝わってくるが、市民にどう関わってほしいかが分からない。市民の活動とどんな繋がり

があるのか。

【事務局】

例えば補助金制度事業でいえば、制度の啓発をするのは市のアクションだが、実際に制度を活用して環境行動を起こすのは市民のアクションである。そういった実際の行動の部分で、市民の皆様に協力していただきたい。

【前田委員】

第2次安城市環境基本計画の指標には、具体的な数値で示されていないものもある。来年からは結果報告を行うことになるが、どのようなかたちで指標を評価する考えか。我々も、示された結果を指標と照らしてどう見たらよいか。考え方があれば、教えてもらいたい。

【事務局】

計画の指標は、基本的にアクションプランの事業と連携していると考えてもらいたい。そのため、今後進捗管理を行っていくにあたって、指標の数値がよくないときは、そのアクションプランの事業をこうしていったらどうかということでご意見を頂きたい。

【寺田会長】

市民があんくるバスに乗ったり電気自動車を購入したりし、市は電気自動車用の充電スタンドを1つでも多く作って、環境にいいまちだということを見せられるといいと思う。

(4) 地球温暖化問題について【講義】

【中尾委員】

(資料：地球温暖化問題について)

- ・ 環境問題の中での地球温暖化問題の位置づけ
- ・ 地球温暖化の仕組みと原因
- ・ CO2濃度と気温の変化
- ・ 地球温暖化による影響
- ・ 日本と世界のCO2排出状況
- ・ CO2排出削減のための国際協調
- ・ 2050年カーボンニュートラル実現に向けて
- ・ 私たちができること～家庭における温暖化対策～
- ・ 地球温暖化対策～緩和と適応～

(5) 安城市における地球温暖化対策の施策・方針等について

<説明事項>

【事務局】

(資料：安城市における地球温暖化対策の施策・方針等について)

- ・ 集合住宅向け電気自動車等充電インフラ普及促進事業
- ・ サントリーグループとの「ボトルtoボトルリサイクル事業」に関する協定の締結
- ・ 地域脱炭素ロードマップ
- ・ CO2削減率目標の引き上げ

<説明に関する質問・意見>

【岩井委員】

電気自動車向け充電インフラの設置は非常にいいことだと思うが、産業界からの意見としては、燃料電池自動車へのサポートも考えていただきたい。安城市の主要な産業といえばトヨタ自動車の下請け企業だが、今現在、トヨタ自動車は電気自動車を製造していない。市内には内燃機関を作る下請け企業が多いため、何とかそういう企業が生き残っていけるように、燃料電池自動車へのサポートもしてほしい。水素ステーションも市内に1か所しかなく、燃料電池自動車を利用するには不便であることも、なかなか利用が進まない原因の1つかと思う。水素ステーションの設置は高額だが、設置に対する補助などをしてもらえるといいと思う。

【事務局】

水素ステーション設置への補助事業として、既に安城市は上限7500万円で補助制度を設けている。ただし、設置に高額な費用が掛かるため、やはり民間による設置は進んでいない状況である。

先ほどの講義にもあったが、安城市のCO2排出量のうち事業活動によるCO2排出量は約78%を占めており、事業者向けの支援にも取り組まなくてはいけないと思っている。商工課が市内の中小企業に向けて行った調査によると、トヨタ自動車の一次下請け業者に対しては、トヨタ自動車から具体的なCO2排出量削減の指示が出ているようである。一方、二次下請け業者および三次下請け業者に対しては、現時点では具体的な指示はなく、事業者は具体的にどのような取組みをしたらよいのか分からないと思っているのが現状のようである。そのため、次年度は中小企業向けのカーボンニュートラルについてのセミナーの実施を考えている。カーボンニュートラルに関する知識を中小企業の皆様に広めていくとともに、事業者の皆様のニーズ等も把握して支援策を検討していきたいと思っている。

【浅田委員】

サントリーとの「ボトルtoボトルリサイクル事業」は、これからどう進めていくのか。例えば、このボトルが市場に出回るのはいつ頃か。

【事務局】

サントリーとは既に協定を結んでおり、4月から実際のボトル回収が始まる。回収されて加工され、市場に出回って皆様の手元に届くのは、概ね来年の夏前くらいだとサントリーからは聞いている。現時点では「やさしい麦茶」が「またあえるボトル」であり、今後「伊右衛門」や「なっちゃん」といった主力商品にも使われていくとのことである。

【石原委員】

先日、新聞にて、人工光合成という技術がかなり進んできているという記事を見た。実現可能かどうか分からないが、例えばそういった技術の実証実験を安城市で行うなど、増え続けるCO2排出量を削減することに寄与する取組みを考えていけたらいいと思う。

【事務局】

トヨタグループの中でもカーボンニュートラルに先駆的に取り組んでいるデンソーでは、安城工場にて工場内から出る排ガスの中からCO2を取り出すという取組みを行っている。デンソーは、CO2濃度の薄い排ガスからCO2を回収する技術を持ち、大

気中からCO2を回収する技術を少しずつ積み重ねているところであり、これを様々な業界に向けて商品化していこうと考えている。せっかく市内でそのような先進的な取組みが行われているため、市としてもそれらを支援しながら、市内の企業の中で社会実験を行ってもらったり、さらにそこに行政が加わるようなスキームを作ったりできるように検討していきたいと思っている。

【久恒委員】

ボトルtoボトルリサイクル事業は、市民がペットボトルを綺麗に洗ってきちんと分別しリサイクルをしてくれたおかげで、このような協定を結べたと思う。今まで市民が取り組んでくれたことに感謝したいし、今後もこの事業がうまくいくように取組みを続けてもらいたいということと呼び掛けてもらいたいと思う。

【事務局】

この事業については、アンディヤマナカ新城店1階の広場にて一週間ほどパネル展示によるPRをしている。また、4月の進行開始に向けて、広報等を通じて逐次情報提供していきたいと思っている。

【土井委員】

これからの未来を生きていく小中学生の子どもたちに向けて、ボトルtoボトルリサイクル事業のような循環の取組みを、自分の住んでいるまちで行っているのだということを伝えてほしい。またサントリーとも一緒になって出前授業等で子どもたちに伝えることで、市民・行政・事業者が三位一体となった取組みにつながると思う。たとえ循環のサイクルができたとしても、それを継続するためには市民の協力が不可欠であり、そのためには未来に生きる子どもたちの力が何より大切だと思うので、ぜひ検討してもらいたい。

5 その他

<説明事項>

【事務局】

・広報あんじょう11月号記事および地球温暖化対策についてのパンフレットによる環境啓発活動の報告